

令和2年度 山口県私立学校教育功労者表彰に係る受賞者一覧

(※ 年齢は、6月2日現在)

校種	所 属 (市町)	職 名	氏 名	性別	年齢	功績概要・その他の役職・賞罰
高等学校	学校法人柳井学園 柳井学園高等学校 (柳井市)	常勤講師 事務長	まつだ まさお 松田 真雄	男	64	<p>昭和58年柳井学園高等学校に英語教諭として奉職した後、24年の長きにわたり英語教育に力を注ぎ、生徒の学力向上に尽力し、大学等への進学・就職において実績を上げてきた。また、教科の指導のみならず学校運営にも積極的に関わり、学園づくりに貢献してきた。</p> <p>そうした松田氏の真摯な姿勢と業務への熱心な取組が認められ、平成19年には学園の経営の全般を取り仕切る事務長に任命され、少子化の時代において厳しい経営環境の中で、教科(英語)を教える傍ら、次々と教育環境の整備に着手した。</p> <p>平成19年の教育相談室の増設をはじめ、スクールバス運行、調理室・教室棟の新築、さらには夏場における良好な学習環境のを保持するため、各校舎へエアコンの設置を行うとともに、情報教育を推進するために電子黒板を導入するなど、さまざまな教育環境の整備を行った。松田氏はこうした教育環境の整備の中心的な存在として、教育の質の向上に努めた功績には大きなものがある。</p>
	学校法人萩光塩学院 萩光塩学院中学校・高等学校 (萩市)	教 頭	しながわ けいじ 品川 圭二	男	60	<p>昭和58年に萩光塩学院教諭として奉職した後、平成16年教務主任、平成23年教頭に就任、これまで37年の長きにわたり私学教育の向上に情熱を注ぎ、同校を本県北部の公教育の中核校に育て上げた功績は大である。</p> <p>品川氏は、採用後、3年目にして当時の校長から同校のワープロ導入の担当者として指名され、同校の情報化の先駆けとして業務にあたるとともに、コンピュータによる成績処理システムを導入するなど情報化による業務の効率化を積極的に推し進め、教職員の情報機器の活用に尽力した。</p> <p>また、同校は平成14年まで約50年間女子教育に専念してきたが、平成15年に男女共学に移行した。その際、当時の理事長から若手・中堅教職員を中心に企画委員会を結成・検討するよう指示があり、品川氏を中心に共学化の準備が行われた。</p> <p>品川氏は、教育環境の整備にも積極的に取り組み、平成27年の体育館、1号館校舎、平成29年本館校舎など、大規模な施設整備にあたって、校内建設実行委員会の中心メンバーとして、教職員の意見を取りまとめるとともに、校内のICT化も積極的に推し進め、現在の充実した教育環境の設備構築に尽力した。</p> <p>また、同校の教育の特色は「心を育てる教育」「国際理解教育」「コース制」の3つであるが、「コース制」は時代の変化や中学生や保護者のニーズに合わなくなってきたことから平成29年度入学生から見直すこととなり、品川氏は教頭として、また長年務めた教務主任としての知識と経験を活かして、新たなコースの導入とその準備に尽力した。</p> <p>さらに、少子化に伴う生徒数の減少から生徒募集が重要な課題となっているが、同校は魅力ある学校づくりのため部活動の再編や国際交流・ボランティア活動・地域貢献活動を積極的に行い、私立学校独自の特色ある教育に取り組んできた。昨年度は卓球部のインターハイ3位入賞、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会決勝大会進出、京都大学や難関私立大学への合格など成果が表れつつあり、魅力ある学校づくりの取組が進んでいる。品川氏はその全てにおいて関わり、安定した学校経営、学校運営に貢献してきた。</p> <p>近年の少子化に伴う生徒減少期における厳しい私学経営の中、地域社会に認められる魅力ある学校づくりを目指して着実に実績を挙げ、保護者や地域の方々から信頼される同校の発展に寄与した功績は大きいものがある。</p>

令和2年度 山口県私立学校教育功労者表彰に係る受賞者一覧

(※ 年齢は、6月2日現在)

校種	所 属 (市町)	職 名	氏 名	性別	年齢	功績概要・その他の役職・賞罰
幼稚園	学校法人武居学園 下松慈光幼稚園 (下松市)	理事長	いが のりゆき 伊賀 訓之	男	81	平成11年4月から武居学園の監事として、また、平成18年には理事として幼稚園経営に参加してきたが、平成19年に前理事長が死去したことから平成20年には副理事長(理事長代理)となり、幼稚園の実質的な経営者として幼稚園経営に尽力し、平成28年には理事長に就任した。伊賀氏は、会社経営の傍ら、これまで、監事、理事、副理事長、理事長職とも、無償で幼稚園経営にあたり、同園に多額の寄付等も行っている。教育方針として、「豊かな人間性を培う いきいき慈光っ子の育成」を目標に掲げ、「やさしく、かしこく、たくましく」をモットーに「遊び」を通して、「自ら学ぶ力」を育み、単に与える保育ではなく、一人ひとりの成長の過程を見つめつつ、義務教育に備えた教育と豊かな心情を育てる教育を行い、少子化の中で園児数も増加させている。また、幼稚園の年間行事も春の収穫祭、慈光まつり、秋の大運動会、園外保育(お店見学)、もちつきなど四季折々のイベントを盛り込み、子どもの健やかな成長に寄与する企画を推し進めている。平成23年度には山口県消防協会長表彰を受賞するとともに、平成25年度には世界児童画展で都道府県団体賞を、平成26年度には優秀園賞を受賞するなど防火意識の醸成や表現力の育成にも努力している。さらに、通園の利便性を図るため、登園バスを3台整備するとともに、幼稚園の隣接地を取得し、新園舎を整備(令和2年5月完成予定)するなど教育環境の整備にも積極的に取り組んでいる。令和2年4月には認定こども園に移行し、地域のニーズに応える幼稚園経営に尽力している。こうした子ども達への健やかな成長を願う伊賀氏の取組に保護者の厚い信頼と地域社会の高い評価を得ている。
	学校法人玖珂学園 認定こども園 玖珂中央幼稚園 (岩国市)	理事長 園 長	たなか たかこ 田中 孝子	女	67	平成5年4月に玖珂中央幼稚園に非常勤職員(事務職:中学校教諭免許保有)として奉職し、平成22年11月からは園長に、また、平成29年12月からは学校法人玖珂学園理事長に就任し、学園の運営に尽力している。この間、認可外保育施設の併設や認定こども園の認可を得るなど地域の保育ニーズにも応え、保育から幼児教育へと繋がる長期の子どもの育ちの見守りを基本に、保護者に安心して子どもを預けられる施設づくりと質の高い幼児教育の提供を目指して、同園を地域の特色ある幼稚園に育て上げた功績は大である。同園は、健全な「心」と健康な「身体」の調和的発達を促し、自立性、規範意識、協調性、「食」への感謝の気持ちを育てること等を教育方針として、特色ある教育を行っている。具体的には、児童教育心理学を修めた体育専門教師による遊びや運動、友達とのコミュニケーションづくり、専門のインストラクターの指導による水泳教室、専任講師による論語の「素読」を通じた思考力、読解力、集中力等の基礎力の育成、小学校英語指導者認定講師による英語教室など多彩な講師陣による質の高い教育を提供している。また、子ども達にとってよりよい教育環境づくりにも力を注ぎ、令和2年3月には既存施設と一体となった機能的な園舎の改築を行うとともに、消防意識の醸成にも取り組むなど田中理事長がその先頭に立って幼稚園を牽引してきた功績は大きく、その取組は、保護者の厚い信頼と地域社会の高い評価を得ている。
	学校法人信望愛学園 マリア幼稚園 (光市)	園 長	もり まどか 森 円	女	61	昭和54年4月から現マリア幼稚園に奉職した後、一時、退職期間はあるものの、平成8年4月に復職し、これまで28年の長きにわたり幼児教育の振興発展に尽力し、同園を地域の特色ある幼稚園に育て上げた功績は大である。同園は、キリスト教精神に培われたモンテッソーリ教育に基づいて、自分の五感を使い、日常生活を通して、一人ひとりが感覚的に自分で学び、個性を伸ばし創造力を育む教育を展開している。横割り(同年齢で構成されたクラス)の教育を大事にしながらも、縦割り(満3歳、3、4、5歳の組み合わせによるクラス)の教育を基本とし、子ども達が見て学び、助け合って成長していく教育を行っている。また、専門講師による絵画、体操の直接指導を行うなど教育方法も工夫し、お泊まり保育、SL遠足、卒園児クリスマス会(1~6年生)、教会訪問、音楽発表会など園内行事も多彩なものとなっている。さらに、幼稚園は子どもの成長を願う保護者の協力者との立場から、幼児の学園生活の風景写真のホームページへの掲載や家庭訪問、年長児・年中児・年少児別の参観日(参観、講話等)、自由参観週間(多くの保護者が参加)の設定など幼稚園と保護者との緊密な連携を推進している。また、0歳からの親子サークル(あかちゃんくらぶ)や未就園児の親子教室(ひまわりくらぶ)など地域の保育ニーズにも積極的に対応しており、森氏の幼稚園運営について保護者や地域社会から高い評価を得ている。